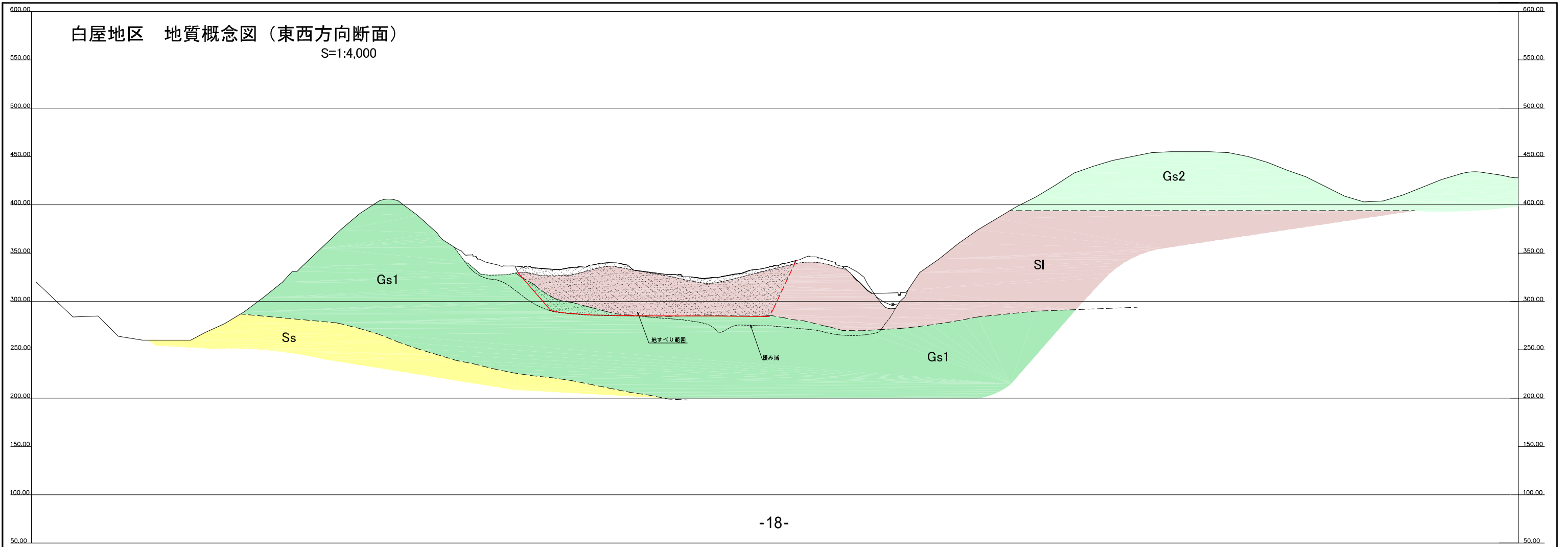
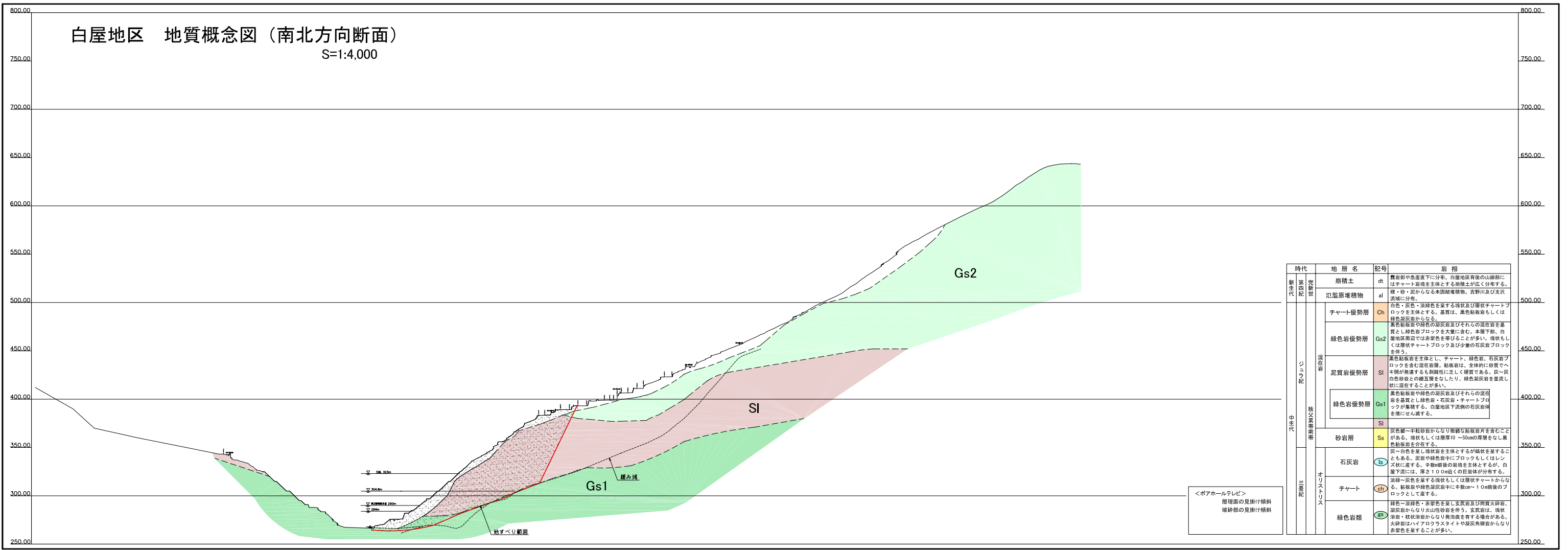
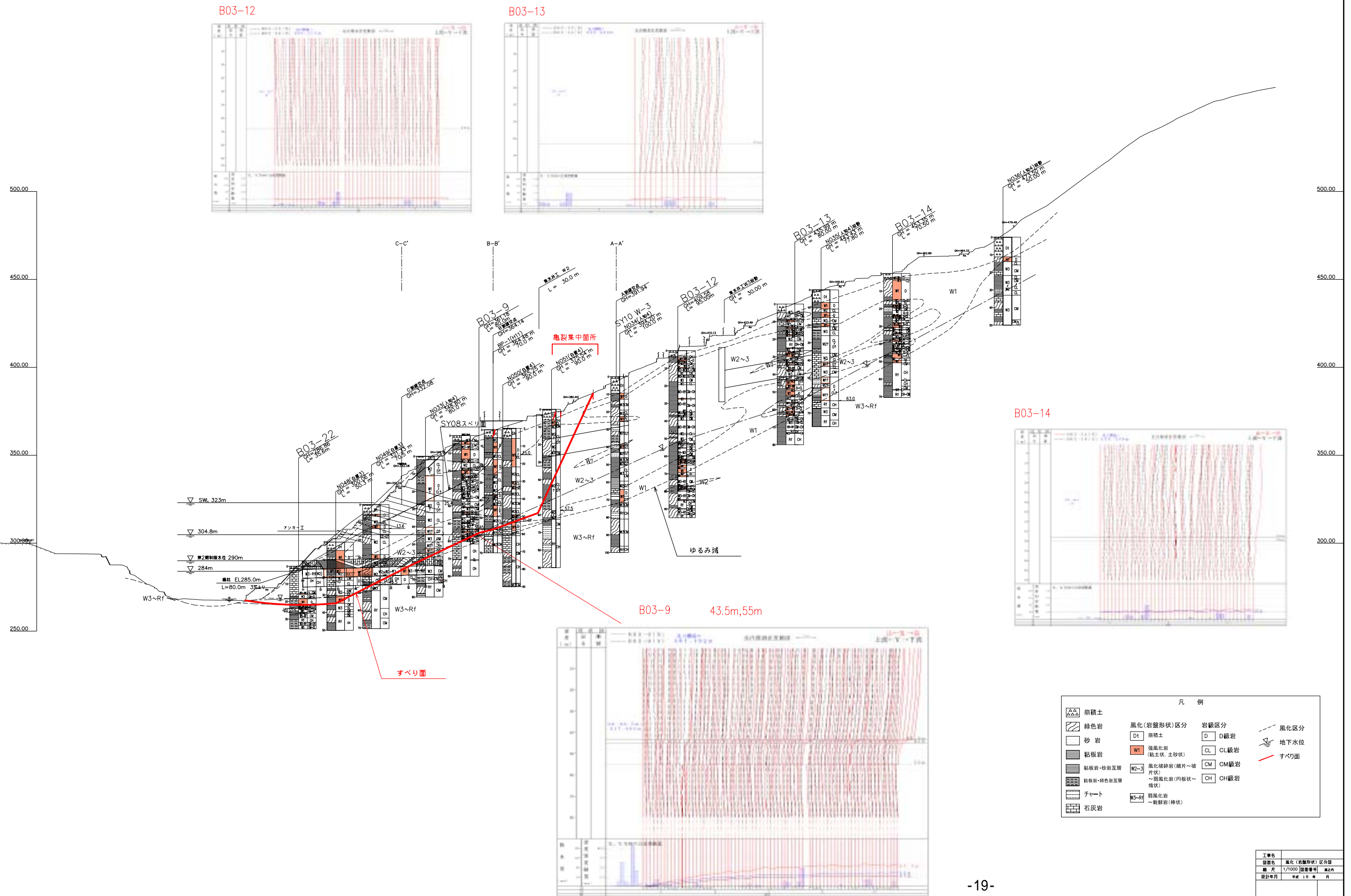


| . 地形・地質とりまとめ | | |
|-------------------------|---|-----|
| 事 項 | 要 点 | 備 考 |
| 2 .地すべりを考察するための地形・地質的要因 | <p>白屋地区は全般に緩斜面となっているが、この背後には地すべりの頭部に相当する滑落崖がないため、緩斜面全体が過去に地すべり運動を起こしたとは考えられない。また、今回の地すべり範囲についてもこれに対応する滑落崖や段差等はないので、初生的な地すべりと判断される。なお、川沿いには馬蹄形の地すべり地形が局部的に認められ、これらに対しては既に鋼管杭工、アンカー工等の防止工が施工されている。</p> <p>今回実施されたボーリングの結果、白屋地区の岩盤にある深度(約70m以浅)まで、部分的に角礫化、細粒化、粘土化等が見られ、長い年月をかけて風化し、緩み域を形成している。緩み域の中でとくに粘土化が進んだW1に分類される箇所は、複数の深度に分布し、その一部には鏡肌や条痕等が認められる。</p> <p>川沿いの低い標高部では、地層が流れ盤となっており、ボーリングで見つかった緩み域の最深部は岩相の境界に沿っている傾向が見られるのに対し、山寄りの高い標高部では、地層の傾斜が緩くなり、緩み域は泥質岩優勢層中に存在し、その下限は岩相の境界とは一致していない。</p> <p>今回の地すべり現象を起こしたすべり面は、低い標高部では緩み域の下限すなわち岩相境界付近にほぼ形成されている。一方、地すべり頭部の境界や上下流の側面は、泥質岩優勢層中の緩み域内に存在する。</p> | |



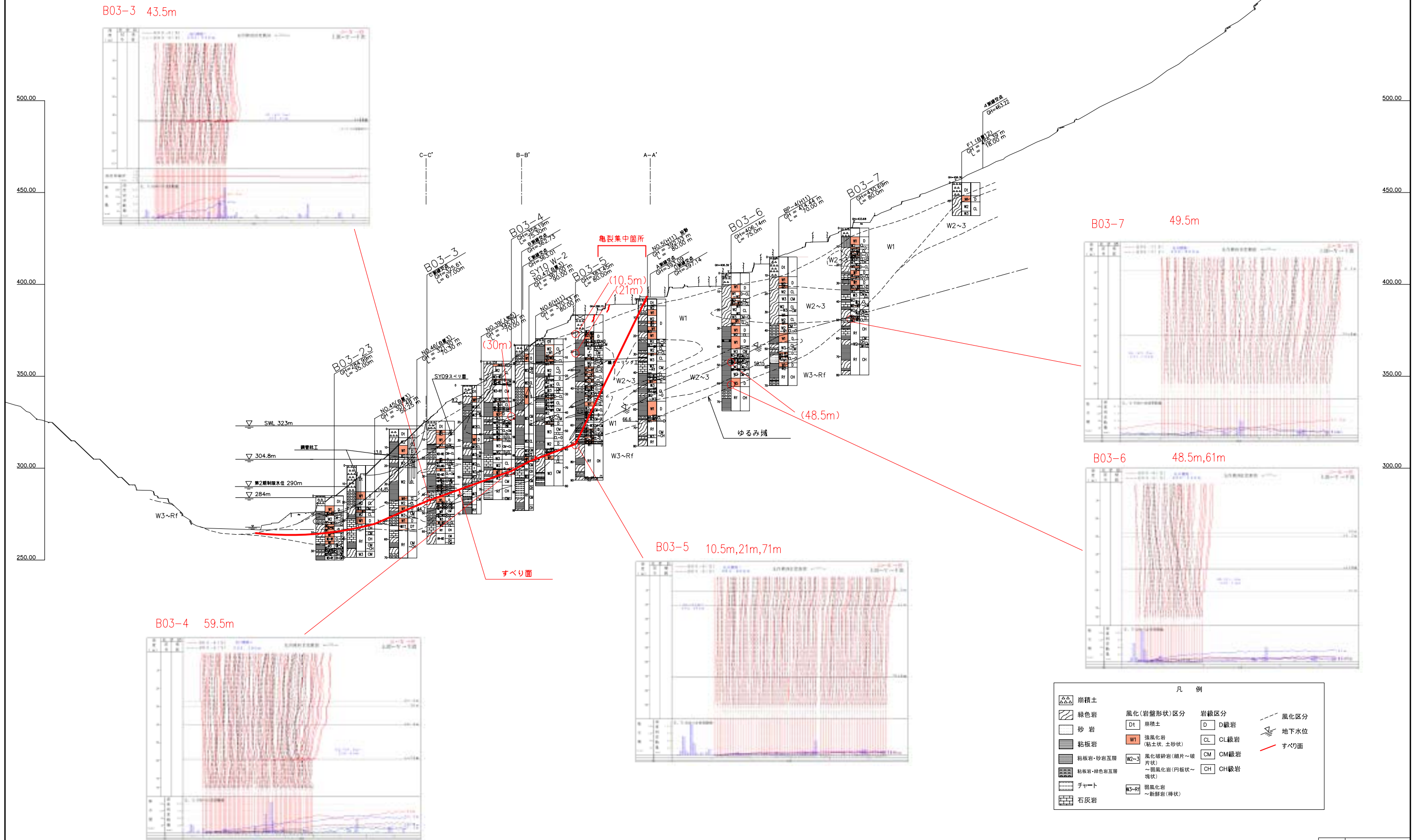
風化（岩盤形状）区分（1測線）

S=1:2,000



| | |
|------|------------|
| 工事名 | 風化（岩盤形状）区分 |
| 図面名 | 風化（岩盤形状）区分 |
| 縮尺 | 1/2000 |
| 設計年月 | 平成 10 年 月 |

風化（岩盤形状）区分（2測線）



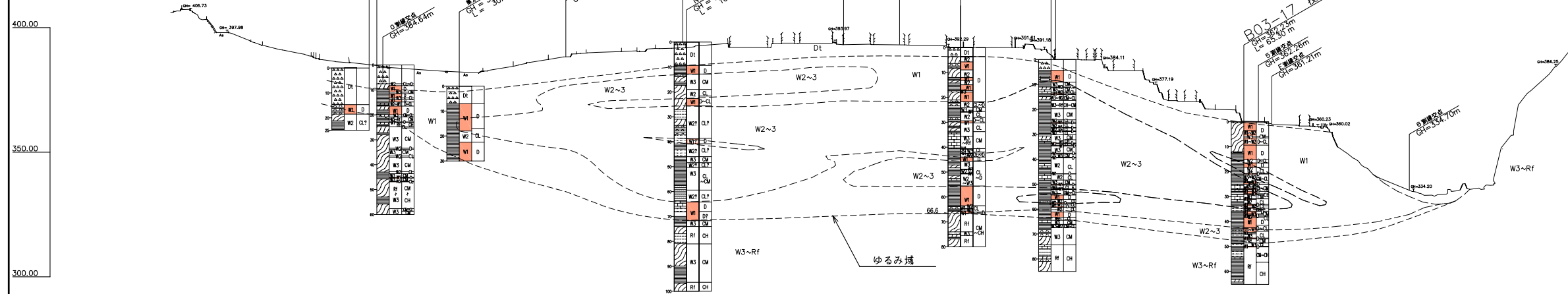
| 凡例 | | | |
|----|-----------|------------|------|
| | 崩積土 | 風化(岩盤形状)区分 | 岩級区分 |
| | 緑色岩 | D1 | D級岩 |
| | 砂岩 | W1 | CL級岩 |
| | 粘板岩 | W2-3 | CM級岩 |
| | 粘板岩・砂岩互層 | W3-Rf | CH級岩 |
| | 粘板岩・緑色岩互層 | | |
| | チャート | | |
| | 石灰岩 | | |
| | 風化区分 | | |
| | 地下水位 | | |
| | すべり面 | | |

| | |
|------|-------------|
| 工事名 | 風化(岩盤形状)区分図 |
| 縮尺 | 1/2000 |
| 設計年月 | 平成 10 年 月 |

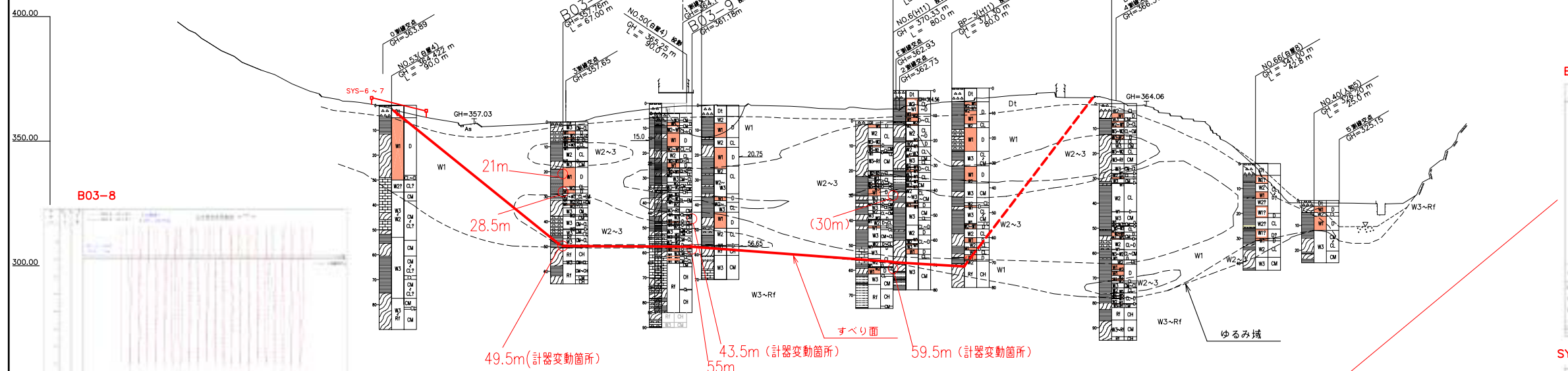
風化(岩盤形状)区分 (A測線、B測線、C測線)

S=1:2,000

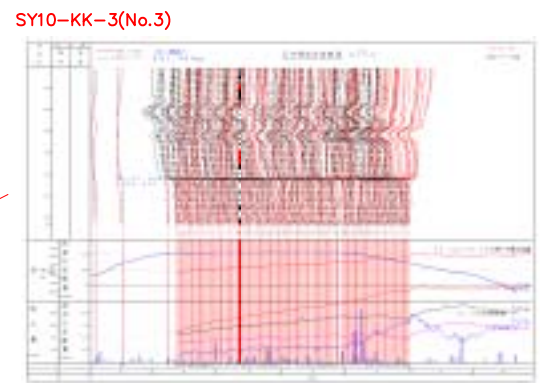
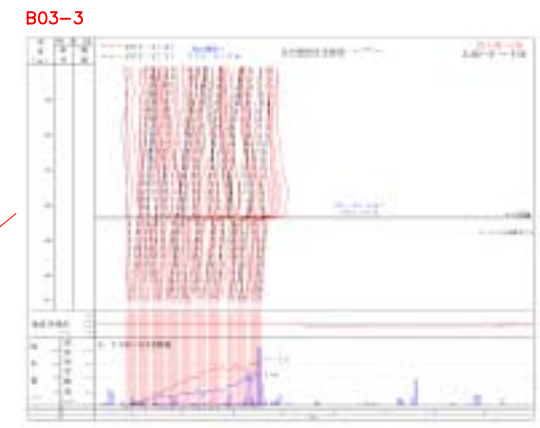
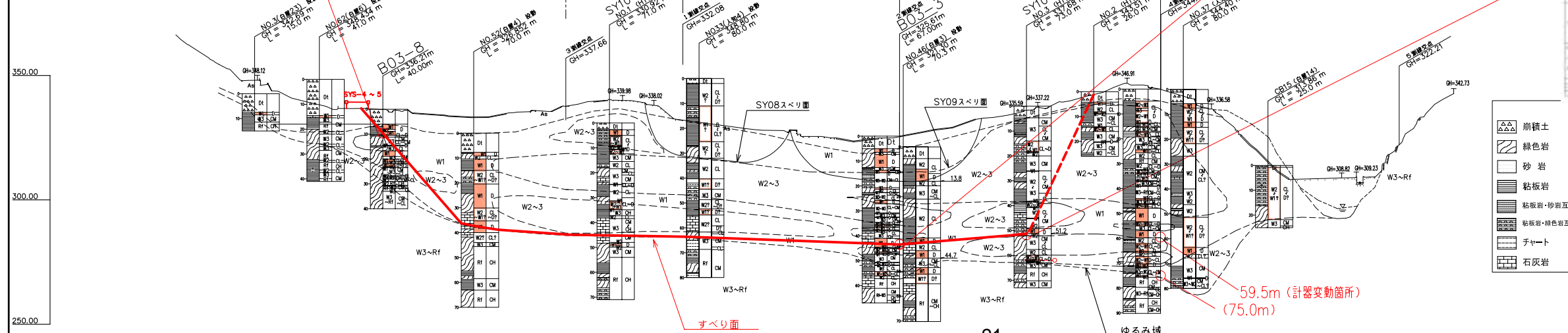
A-A' 断面



B-B' 断面



C-C' 断面



凡例

| | | | | | |
|--|-----------|--|------|--|------|
| | 崩壊土 | | D級岩 | | 風化区分 |
| | 緑色岩 | | CL級岩 | | 地下水位 |
| | 砂岩 | | CM級岩 | | すべり面 |
| | 粘板岩 | | CH級岩 | | |
| | 粘板岩・砂岩互層 | | | | |
| | 粘板岩・緑色岩互層 | | | | |
| | チャート | | | | |
| | 石灰岩 | | | | |

風化(岩盤形状)区分
 Dt 崩壊土
 W1 強風化岩 (粘土状、土砂状)
 W2~3 風化破砕岩 (断片・破片状) ~ 弱風化岩 (円板状・塊状)
 W3~Rf 弱風化岩 ~ 新鮮岩 (棒状)
 岩盤区分
 D D級岩
 CL CL級岩
 CM CM級岩
 CH CH級岩

| | |
|------|-------------|
| 工事名 | 風化(岩盤形状)区分 |
| 図面名 | 1/2000 図面番号 |
| 縮尺 | 1/2000 |
| 設計年月 | 平成 14 年 月 |